

# 輸出入とも大幅に拡大（欧州）

## - 2000年の貿易動向 -

海外調査部欧州課

2000年のEUを中心とする西欧経済は顕著な域内消費と輸出の拡大により、過去10年間で最も好調な1年となった。中・東欧経済についても輸出と対内直接投資の拡大により、1989年の市場経済化以降、初めてすべての国でプラス成長を達成した。

貿易については、ユーロ圏はユーロ安による輸出が拡大し、非ユーロ圏でもEU域外向け輸出が好景気に沸く米国向けを中心に伸長した。輸入については、原油価格高騰の影響により、産油国からの輸入額が大幅に伸びた。一方、対日赤字は全体的に拡大している。

本レポートでは、2000年の欧州の経済・貿易動向を西欧と中・東欧の2地域に分けて以下に報告する。

### 1. 西欧

#### (1) 堅調な域内消費と輸出の拡大が経済成長を牽引

2000年のEUを中心とする西欧経済は堅調な域内消費と輸出の拡大により、過去10年間で最も好調な1年となった。欧州委員会が2001年4月に発表した「2001年春季経済予測」によると、EU15カ国の実質GDP成長率は99年の2.5%から2000年に3.4%と高成長を記録した。特に、EUでは個人消費がピークとなった同年第2四半期の実質GDP成長率が年換算で3.7%となり、経済成長率も頂点に達した。2001年は米国の景気後退に伴う外需低下から輸出の伸びが抑制されるとみられる。

欧州委は加盟各国のEU域内への輸出割合が大きいことからその影響は限定的とし、4月時点で2001年のGDP成長率を2.8%と予測した。2000年11月の予測値に比べ、0.3ポイントの下方修正であるが、EU経済はその影響を十分吸収できるとの見方を示した。しかし、独、仏の経済予測機関は6月にさらに下方修正し、独 ifo研究所がドイツの成長率を1.2%、仏国立統計経済研究所がユーロ圏およびフランスの成長率をそれぞれ1.9%、2.3%とした。

雇用情勢は良好であり、2000年のEU全体の雇用数はネットで前年比1.7%増と、90年以降で最も高い伸びを示している。独、仏、伊などの主要国政府は、2000年から続く良好な雇用環境をベースに、2001年以降の大規模

.....

減税策により個人消費を活性化させ、持続的成長を図ろうとしている。2001年、2002年の雇用創出はペースを落とすが、ともに1.2%増と欧州委はみている。この結果、失業率は2000年の8.3%から2001年は7.7%、2002年には7.2%へ低下するとしている。

原油価格の高騰に伴いEUの物価上昇率は、2000年6月に前年同月比で2.1%（ユーロ圏2.4%、3月時点で既に2.1%）となり、欧州中央銀行（ECB）の目標値2.0%を超えた。その後、原油価格がピークに達した11月には2.6%（同2.9%）まで上昇した。2000年平均では2.1%（同2.3%）、2001年も4月の欧州委予測では2.1%（同2.2%）となっている。物価安定に主眼を置くECBは、ユーロ圏のインフレ懸念に対応し、最も重要な政策金利（短期オペ金利）を2000年の間に6回利上げし、10月時点で4.75%とした。その後、米国の景気減速に伴う金利引き下げに対応し、2001年5月に0.25ポイントの利下げに踏み切ったが、同月の物価上昇率が3.4%増（EUは3.1%増）に達するなど、ユーロ圏のインフレ懸念が再燃しており、ECBは物価安定と経済成長との間で難しい舵取りを強いられている。

ユーロは99年12月（平均）のECB為替レート、1ユーロ＝1.011ドルから2000年12月には0.897ドルと1年間で11.3%下落した。99年1月のユーロ導入時（1ユーロ＝1.161ドル）との比較では22.7%の下落である。しかし、一方ではこのユーロ安が欧州の輸出を牽引し、経済成長に貢献した。

## （2）域外貿易赤字は拡大に

EU統計局（EUROSTAT）によると、2000年のEUの貿易総額に占める域内と域外貿易の割合は6対4で、域内貿易の割合が大きい。域内貿易の伸び率は前年比15.5%で、ドイツ、フランス、英国、オランダ、イタリア、ベルギーなどが主軸となって拡大を牽引している。域内貿易ではオランダ（765億ユ

ーロ）、ドイツ（362億ユーロ）、ベルギー（213億ユーロ）、アイルランド（185億ユーロ）の4カ国が大幅な黒字国となっている。

域外貿易は、輸出が前年比23.2%増の9,357億ユーロ、輸入が同31.6%増の1兆255億ユーロと輸出入とも大幅に拡大し、輸入額が初めて1兆ユーロ台に達した。輸出の拡大はユーロ安によりユーロ圏の輸出競争力が高まったこと、非ユーロ圏でもポンド高であった英国が好景気に沸く米国向け輸出を前年比3割近く伸張させたことなどによる。他方、輸入の拡大は全体の約14%を占めるエネルギー製品が原油価格高騰の影響で前年比88.3%増と急伸したところによる。これにより、域外貿易赤字は874億ユーロと、EU15カ国になって初めて赤字に転じた99年の194億ユーロから4.5倍に膨れ上がった。

2000年の域外輸出を品目別にみると、乗用車（26.2%増）、電気機器・同部品（31.4%増）などにより機械・輸送機器が23.8%増となり、輸出の伸びを牽引した。このほか、加工製品（22.5%増）、化学製品（19.9%増）の伸びが目立った。また、2000年後半から2001年にかけて、狂牛病や口蹄疫の問題が露呈し、牛肉および豚肉製品の消費が減退するなど、これら製品の輸出入に大きな影響を与えた。なお、2000年に狂牛病感染牛が発見されたのは主に英国（1,425頭）、フランス（162頭）、ポルトガル（150頭）、アイルランド（149頭）であった。

輸出を国別にみると、チェコ（29.4%増）、ハンガリー（24.7%増）などEU加盟交渉が進展する中・東欧諸国、96年1月に関税同盟を発効させているトルコ（44.5%増）、全体の4分の1を占める米国（26.2%増）への輸出が大きく拡大している。その他、経済が回復したアジア（日本を含む、28.9%増）、2000年にFTAもしくはFTAを含む包括協定を発効あるいは暫定適用させたメキシコ（33.2%増）、南アフリカ共和国（19.8%増）、

モロッコ（16.0%増）への輸出も軒並み拡大している。

輸入は、原油価格高騰の影響により石油・同製品の輸入が97.4%増となった。その他、電気機器・同部品（49.8%増）、通信機器（49.1%増）を中心に機械・輸送機器が27.9%増となった。国別ではサウジアラビア（88.7%増）、ナイジェリア（2.3倍）、アルジェリア（2.1倍）、アンゴラ（98.5%増）、リビア（89.2%増）、ノルウェー（54.5%増）、メキシコ（49.0%増）など産油国からの金額が大きく伸びている。FTA関連の協定を発効させた国々をみると、産油国であるメキシコと、包括協定の効果が窺われる南ア（34.7%増）を除けば、トルコ（16.2%増）、モロッコ（8.0%増）ともに輸出に比した輸入の伸びは小さい。これらの国々にとってはFTAの効果よりも、FTA関連の包括協定によるEU援助の獲得が重要であるといえる。

また、注目すべきは対中国貿易で、輸出入ともにそれぞれ30.7%増、40.8%増と大きく拡大、貿易赤字が446億ユーロに達し、日本を抜いて最大の貿易赤字相手国となった。中国からの輸入を牽引したのは通信機器（72.4%増）、電気機器（59.2%増）、事務用機器・コンピュータ（57.7%増）などで構成される機械・輸送機器（60.8%増）で、全体の伸びの半分以上は同機器による。そのほか、衣類（18.8%増）などから成る雑製品が29.2%増と伸びた。また、金額は小さいが自動車の輸入が2.6倍に急増している。なお、EUは対中国戦略強化のため、5月に政治対話と経済協力強化を中心とする関係強化に向けた75項目の提案を行ったほか、6月20日には中国のWTO加盟について同国と政治的合意に達している。

### （3）地域統合の拡大と対外関係の強化

EUは引き続き拡大と対外関係の強化を図るための努力を継続している。2000年12月に

ニースで開催されたEU首脳会議では、EU拡大を前提とする機構改革について合意がなされた。これにより2004年以降の中・東欧諸国のEU加盟が現実味を帯び、早期加盟国は2002年末までに加盟交渉終了も可能とされた。さらに2001年6月のスウェーデン・ヨーテボリでのEU首脳会議では、2004年の欧州議会選挙に触れ、新規加盟国の同選挙への参加の可能性を確認した。

EUは2001年4月にマケドニアと協定発効後10年以内のFTA締結を含む安定化・連合協定（SAA）に調印した。SAAは旧ユーゴスラビアの南東欧諸国5カ国（アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、ユーゴスラビア連邦、マケドニア）を対象に、これら諸国の安定・発展と将来的なEUへの加盟の道筋をつけるもので、マケドニアはこれら5カ国の中で最初の調印国となった。クロアチアとは2001年秋までのSAA調印を目指している。SAAでは発効後6年間の移行期間を経てFTAを立ち上げる見通しである。EUはアルバニアとも同交渉の準備を進めている。他方、地中海諸国とのパートナー・シップによる2010年自由貿易圏設立構想の一環で、EUはエジプトと6月25日にFTAを含む連合協定に調印した。さらに、メルコスール（南米南部共同市場）ともFTA締結交渉を進めている。

スイスで2001年3月4日に実施されたEU加盟申請を問う国民投票は、時期尚早として大差で否決された。これは2000年の国民投票で承認されたEUとの包括協定の実践を見極め、追加項目の交渉を経た後、2007年までに加盟申請を行うという判断があったためとみられる。スイスはもう一方でシアトルでのWTO交渉決裂後、自国が加盟するEFTA（スイス、アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタインの4カ国で構成）の枠組みでFTA交渉を進めている。EFTAは2000年11月にメキシコとFTAを締結し、2001年7月から発効させる予定である。また、カナダ、

チリ、南アフリカ共和国、シンガポール、韓国、メルコスールともそれぞれ交渉を進めている。

#### (4) 対日赤字は拡大に

EUROSTATによると、EUの2000年の対日貿易は、輸出が前年比26.4%増の447億ユーロ、輸入が同19.2%増の855億ユーロであった。貿易収支は408億ユーロの赤字で、赤字額は前年の363億ユーロから12.4%増加した。輸出を品目別にみると、事務用機器・コンピュータ(78.2%増)、自動車(23.0%増)、電気機器(40.1%増)から成る機械・輸送機器(34.0%増)と光学機器・医療用機器(25.3%増)などの雑製品(23.8%増)の伸びが全体を牽引した。輸入では、電気機器(42.6%増)に引張られた機械・輸送機器が19.2%増と伸びた以外は大きな動きはなかった。

日本側の通関統計でみると、日本はEU域内では前年同様、アイルランド、デンマーク、スウェーデンの3カ国に対してのみ入超であった。特にアイルランドに対する赤字額は前年の8億8,900万ドルから16億6,100万ドルへとほぼ倍増した。これは同国への一般機械輸出が2割程度減少した一方、一般機械、電気機械の輸入が倍増したためである。デンマークについては輸送機械、一般機械の輸出が4割程度減少した半面、豚肉の輸入が3割程度拡大したため、赤字額も4割近く拡大した。オランダ、フランスに対してはともに電気機械の輸出が3割強、一般機械が2割程度拡大し、イタリアに対しても電気機械が4割、輸送機械が1割強拡大したため、これら3カ国に対する貿易黒字額は前年に比べ4億～5億ドル増加した。そのほか、EU域外ではスイス、ノルウェーに対して入超であった。

EUおよび欧州13カ国(英国、フランス、スペイン、ポルトガル、オーストリア、オランダ、フィンランド、ドイツ、ギリシャ、スウェーデン、イタリア、ノルウェー、スイス)

はそれぞれ対日ビジネスキャンペーンを展開し、対日輸出の拡大に努めている。また、日・EUは双方から規制改革要望書を提出し、規制改革に関する定期的な取り組みを続けている。2001年2月の政府間対話では競争政策、商法改正などが取り上げられた。民間レベルでは「日・EUビジネス・ダイアログ・ラウンドテーブル」を99年から継続しており、2001年7月にはブリュッセルにて第3回目の会合が開催された。そのほか、11月のWTO閣僚会議に向けて、日・EUは新ラウンドを早期に立ち上げられるよう協調していく旨表明している。

## 2. 中・東欧

### (1) 輸出と対内投資の拡大により、高成長を記録

EU加盟交渉を進めている中・東欧10カ国(ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー、スロベニア、ルーマニア、ブルガリア、およびエストニア、ラトビア、リトアニアのバルト3国)全体の経済成長率は、欧州委員会が4月に発表した「2001年春季経済予測」によると、95年の5.7%をピークに99年には2.2%まで低下したものの、2000年は輸出の大幅な伸びと対内直接投資の拡大により4.0%まで回復し、すべての国でプラス成長を記録した。また、欧州委は2001年について、同諸国最大の貿易相手であるEUの経済成長鈍化に伴って、輸出の伸びが減速するが、実質賃金の上昇と生産性の向上から、個人消費と投資が拡大すると見込んでいる。さらに、同諸国が進めている諸制度のEUとの調和が各国マクロ経済をより安定化させるとして、同諸国全体の経済成長率について、2001年は4.0%、2002年は4.3%の高成長が持続すると予測している。

### (2) 貿易額はすべての国で増加

2000年の中・東欧諸国(ポーランド、チェ

コ、スロバキア、ハンガリー、スロベニア、ルーマニア、ブルガリア、クロアチア)の貿易額は、すべての国で、前年比で輸出額、輸入額ともに増加した。特に、前半好景気であったEU向けを中心に輸出が拡大し、ポーランド、スロベニア、スロバキアの貿易赤字は、やや改善した。しかし、チェコ、ルーマニアなどEUからの輸入が伸長した国は、原油価格高騰によるロシアからの輸入拡大もあり赤字幅が広がった。また、ポーランド、チェコ、ハンガリーの3カ国で、同諸国の輸出額の68.8%、輸入額の69.3%を占めた。

地域・国別には、同諸国の対EU貿易額は、輸出が前年比11.8%増、輸入が同4.7%増となり、スロベニアを除いたすべての国で輸出入とも増加した。一方、同諸国の対EU貿易の割合は、輸出が67.7%、輸入が59.0%で、それぞれ前年比0.6ポイント減、同3.6ポイント減となったが、引き続き高いレベルを維持した。対EU輸出の割合は、最も高いのがハンガリーの75.2%で、最も低いブルガリアは51.2%であり、それぞれ前年比1.0ポイント減、同0.9ポイント減であった。対EU輸入の割合では、スロベニアが同1.1ポイント減の67.8%であり、依然として最も高い割合となった。また、最も低いブルガリアは同4.3ポイント減の44.1%であった。このように対EU貿易の割合は、ユーロ安の輸出への影響などで幾分後退したが、ハンガリーを筆頭にEUとの経済関係は引き続き高いレベルにある。

### (3) 2002年末の新規加盟国受け入れを目指すEU加盟交渉

EU加盟交渉を続けている中・東欧諸国では、2001年7月9日現在、ハンガリーとキプロスが、加盟交渉31項目のうち22項目を終了し最も先行している。2002年末までに先行国との交渉を終了させるとする99年のヘルシンキ首脳会議での合意が、2000年12月のニース首脳会議および2001年6月のヨーテボリ首脳会議の場で再確認された。欧州委は、新規加盟国を含めて2004年6月の次期欧州議会選挙を実施したい意向で、交渉をさらに速めたい意向である。今後の加盟交渉の課題としては、労働者および資本の自由移動、農業交渉、関税の逆転現象(EU加盟による一部品目の関税率の上昇)などがあげられる。

### (4) 拡大し続ける対日貿易赤字

日本側の通関統計によると、2000年の日本の対中・東欧(前述8カ国)貿易は、輸出が前年比27.2%増の17億1,092万ドル、輸入が同42.9%増の8億7,692万ドルとなった。日本の貿易黒字は同14.0%増の8億3,400万ドルに拡大した。

最大の貿易相手国はハンガリーで、対中・東欧輸出の49.5%、輸入の45.7%を占めた。以下、ポーランド、チェコの順で、この3カ国合計で輸出の89.5%、輸入の72.3%を占めた。

(田中 晋、江口 慎一)

表1 西欧主要国の主要経済指標

	実質GDP成長率 (%)			消費者物価上昇率 (%)		失業率 (%)		輸出額 (億ユーロ)		輸入額 (億ユーロ)		貿易収支 (億ユーロ)	
	99年	2000年	2001年	2000年	2001年	2000年	2001年	99年	2000年	99年	2000年	99年	2000年
EU	2.5	3.4	2.8	2.1	2.1	8.3	7.7	7,598	9,357	7,791	10,255	193	898
ユーロ圏	2.5	3.4	2.8	2.3	2.2	8.9	8.5	8,315	10,047	7,806	9,978	509	69
ドイツ	1.6	3.0	2.2	2.1	2.0	8.1	7.8	5,100	5,967	4,448	5,441	652	526
フランス	2.9	3.2	2.9	1.8	1.3	9.5	8.5	3,043	3,518	2,942	3,610	101	92
イタリア	1.6	2.9	2.5	2.6	2.2	10.5	9.8	2,210	2,573	2,070	2,559	140	14
スペイン	4.0	4.1	3.2	3.5	3.2	14.1	12.8	977	1,178	1,270	1,571	293	393
オランダ	3.9	3.9	3.4	2.3	4.3	2.8	2.6	2,051	2,497	1,934	2,344	117	153
ベルギー	2.7	3.9	3.0	2.7	1.9	7.0	6.5	1,758	2,072	1,652	1,961	106	111
ルクセンブルク	7.5	8.5	5.6	3.8	2.2	2.2	2.0	668	830	438	550	230	280
アイルランド	9.8	10.7	7.5	5.3	4.0	4.2	3.8	230	252	375	414	145	162
ポルトガル	3.0	3.3	2.6	2.8	3.5	4.2	4.6	620	727	669	784	49	57
オーストリア	2.8	3.2	2.5	2.0	1.6	3.7	3.4	396	499	301	373	95	126
フィンランド	4.2	5.7	4.0	3.0	2.4	9.8	9.1	98	117	263	302	165	185
ギリシャ	3.4	4.1	4.4	2.9	2.6	11.0	10.5	2,554	3,080	3,048	3,710	494	630
英国	2.3	3.0	2.7	0.8	1.4	5.6	5.3	472	550	429	495	43	55
デンマーク	2.1	2.9	2.1	2.7	2.1	4.7	4.6	796	943	643	790	153	153
スウェーデン	4.1	3.6	2.7	1.3	1.5	5.9	5.2	411	610	310	359	101	251
ノルウェー	0.9	2.9	2.3	3.1	3.1	3.4	3.3	738	854	728	867	10	13
スイス	1.5	3.4	2.3	1.6	1.2	2.0	1.5	19	20	23	28	4	8
アイスランド	4.3	2.9	2.6	5.0	6.5	1.3	1.5						

EUの名目GDP額：8兆4,931ユーロ（2000年，推定値） EUの人口：3億7,760万人（2001年1月1日現在）

（注）2000年は推定値。2001年は予測値。ベルギー・ルクセンブルクの貿易は合計額。ギリシャは2001年からユーロに参加。  
出所：欧州委員会，EUROSTAT，ただしノルウェー，スイス，アイスランドの消費者物価上昇率、失業率は各国統計

表2 中・東欧主要国の主要経済指標

	実質GDP成長率 (%)			消費者物価上昇率 (%)		失業率 (%)		輸出額 (億ドル)		輸入額 (億ドル)		貿易収支 (億ドル)	
	99年	2000年	2001年	2000年	2001年	2000年	2001年	99年	2000年	99年	2000年	99年	2000年
ポーランド	4.1	4.0*	4.3	10.1	6.8	16.0	16.5	274.1	316.5	459.1	489.4	185.0	172.9
ハンガリー	4.2*	5.2*	4.6	9.8	9.0	6.4	6.2	250.1	280.9	280.1	320.8	30.0	39.9
チェコ	0.4*	2.9*	3.5	3.9	4.3	8.8	8.5	262.4	290.0	280.8	321.7	18.4	31.7
スロバキア	1.9	2.2	3.0	12.0	7.5	18.6	18.4	102.8	119.1	112.7	126.7	9.9	7.6
ルーマニア	2.3*	1.6	1.8	49.0	36.7	7.2	7.7	85.0	103.7	104.0	130.6	19.0	26.9
ブルガリア	2.4	5.8*	5.2	10.1	8.5	17.8	17.5	40.1	48.1	55.2	64.9	15.1	16.8
スロベニア	5.2	4.6	4.3	8.9	8.0	7.2	7.0	85.5	87.3	100.8	101.2	15.3	13.9
クロアチア	0.4*	3.7*	-	6.2*	-	21.3*	-	43.0	44.3	78.0	79.2	35.0	34.9

（注）実質GDP成長率、消費者物価上昇率、失業率の2000年は推定値、2001年は予測値。  
出所：欧州委員会、ただし、\*と各国の輸出入額は、各国政府、中央銀行統計。

表3 EUの対主要加盟申請国別輸出入

(単位：100万ECU/ユーロ、%)

	金額			構成比			伸び率		
	98年	99年	2000年	98年	99年	2000年	99年	2000年	
輸  出	EU域内	1,258,920	1,337,494	1,544,620	63.2	63.8	62.3	6.2	15.5
	EU域外	733,290	759,791	935,665	36.8	36.2	37.7	3.6	23.1
	加盟候補国13カ国	114,558	118,504	150,499	5.8	5.7	6.1	3.4	27.0
	トルコ	21,489	20,575	29,736	1.1	1.0	1.2	4.3	44.5
	中・東欧10カ国	88,990	93,485	114,880	4.5	4.5	4.6	5.1	22.9
	ポーランド	27,615	28,974	33,684	1.4	1.4	1.4	4.9	16.3
	チェコ	16,894	18,429	23,852	0.8	0.9	1.0	9.1	29.4
	ハンガリー	16,646	18,441	22,999	0.8	0.9	0.9	10.8	24.7
	ルーマニア	6,226	6,328	8,701	0.3	0.3	0.4	1.6	37.5
	スロベニア	6,685	6,918	8,093	0.3	0.3	0.3	3.5	17.0
	スロバキア	5,736	5,517	6,551	0.3	0.3	0.3	3.8	18.7
	ブルガリア	2,392	2,703	3,219	0.1	0.1	0.1	13.0	19.1
	合計(その他を含む)	1,992,210	2,097,285	2,480,285	100.0	100.0	100.0	5.3	18.3
輸  入	EU域内	1,207,146	1,269,228	1,464,845	62.9	62.0	58.8	5.1	15.4
	EU域外	710,543	779,143	1,025,539	37.1	38.0	41.2	13.8	32.2
	加盟候補国13カ国	82,402	92,759	117,014	4.3	4.5	4.7	12.6	26.1
	トルコ	13,599	15,061	17,500	0.7	0.7	0.7	10.8	16.2
	中・東欧10カ国	67,622	76,246	97,508	3.5	3.7	3.9	12.8	27.9
	ポーランド	16,072	17,581	23,184	0.8	0.9	0.9	9.4	31.9
	チェコ	14,579	16,842	21,495	0.8	0.8	0.9	15.5	27.6
	ハンガリー	14,617	17,623	21,742	0.8	0.9	0.9	20.6	23.4
	ルーマニア	5,134	5,774	7,625	0.3	0.3	0.3	12.5	32.1
	スロベニア	5,206	5,297	6,277	0.3	0.3	0.3	1.8	18.5
	スロバキア	5,358	5,961	6,910	0.3	0.3	0.3	11.2	15.9
	ブルガリア	2,229	2,249	3,066	0.1	0.1	0.1	0.9	36.3
	合計(その他を含む)	1,917,689	2,048,371	2,490,384	100.0	100.0	100.0	6.8	21.6

(注) 伸び率は前年比。EU域内貿易は輸出がFOB、輸入がCIFのため輸出入額が一致しない。金額は98年までECU、99年からユーロ。

出所：EUROSTAT; External and intra-European Union trade 2001年6月号。ただし、域内貿易はジェットロが依頼しEUROSTATが6月19日に作成した数値。